さんま通信 春

厚生中央病院だより 第41号 2015年

医療連携室の紹介

医療連携室室長　西川　英子

この度、医療連携室の室長に就任しました、看護師の西川英子と申します。

「医療連携室」と聞いて皆さん、どのようなことをしている部署だと想像なさるでしょうか？

私は、看護師としてこの厚生中央病院に入職しましたが、入職した当時には存在しない部署でした。医療の現場はこの20年ほどで大きく変化を遂げていますが、その象徴といえる部署かもしれません。ここでごく簡単に説明させて頂きます。

国の政策の1つに病院の機能分化があります。大学病院のような大病院は高度な医療を提供し、当院のような中規模病院は地域との繋がりを重要視して御自宅への復帰を目指す医療を提供し、地域の診療所は「かかりつけ医」として日常の生活を支える医療を提供する、といった病院の役割を分けて運営していくことを指します。一人の患者さんを1つの病院で抱え込むのではなく、一人の患者さんを複数の医療機関が重なり合って連携して診療していくことが求められています。そういった中から、今はほとんどの病院に「医療連携室」と呼ばれる部署が存在するようになりました。

「医療連携室」は、スムーズに地域の患者さんを受入れ、スムーズに地域に戻って頂くことを業務としております。具体的には、地域の診療所からの検査依頼や診療依頼、救急での診療依頼をお受けします。こちらで実施した検査や診療の結果を、滞りなく地域の先生方にお返しします。また、大学病院やがん等の専門病院からの患者さんを引受けて治療を継続したり、在宅に戻るための手助けをします。そのため、事務職だけではなく、医師、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）と色々な職種で「医療連携室」を運営しております。

「医療連携室」のポリシーは、それぞれの職種の専門性を発揮しながら、かかりつけ医の先生方と協力して、患者さんがより安心して地域で療養していけるように、全力でサポートすることです。

皆さまのお力になれますよう、日々精進して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

目次 contents

医療連携室の紹介……1
脳卒中を切らずに予防する最先端脳カテーテル治療とは？……2～3
地域健康フェスティバル2015を開催しました
「乳腺専門外来」開設のご案内……4
小児科外来からお知らせ

どうして さんま通信なの？

目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

脳卒中を切らずに予防する最先端脳カテーテル治療とは?

脳神経外科　脳血管内治療指導医
渡　辺　大　介

1．脳血管内治療の紹介と相談窓口

頭蓋骨を切り開く「開頭手術」とともに、近年飛躍的に発展してきた体にメスを入れずに血管の中から治療する「脳血管内治療」が注目されています。脳血管内治療は「カテーテル」と呼ばれる直径0.5～3mmの細い管を患者さんの足の付け根や肘から血管に挿入した後、大動脈を経由して頸部や脳の血管に誘導し、薬剤や「コイル」や「ステント」などを用いて治療を行います。**皮膚や頭蓋骨を切らないため、身体への負担が少ないのが「脳血管内治療」の最大の利点**です。日本脳神経血管内治療学会では、脳血管内治療の進歩とその治療水準の向上をはかるため、認定専門医制度を導入しています。全国に専門医738名、その上の資格である指導医243名（2015年1月時点）が認定されています。厚生中央病院における脳血管内治療は**指導医2名**が担当し治療を行っております。

相談窓口　厚生中央病院　脳神経外科　槻木　治（うつぎ　おさむ）
以下のメールでお願いします。
Mail：utsugi-osamu@kohseichuo.jp

2．脳血管内治療の特色

■脳血管内治療の利点

▷患者さんへの侵襲（負担）が少なく、高齢者や合併症をもった方にも施行可能
▷治療後の入院期間が短い
▷外見上の傷が残らない

■脳血管内治療の問題点

▷レントゲン透視下の手術なので、脳血管損傷などのトラブルが起きたとき、対応が遅れて後遺症を残すことがある
▷血管の屈曲蛇行が強い場合に治療困難な場合がある

3．対象疾患と主要疾患

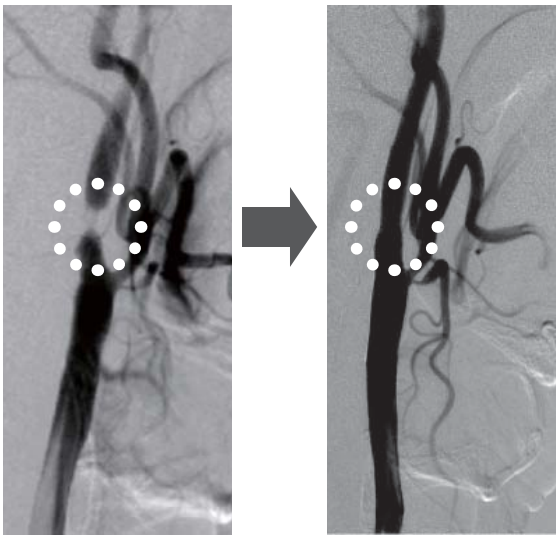
■対象疾患

▷頸動脈狭窄症
▷くも膜下出血（破裂脳動脈瘤）
▷未破裂脳動脈瘤
▷頭蓋内脳血管狭窄
▷脳動静脈奇形
▷硬膜動静脈瘻
▷脳腫瘍

■主要疾患

▷頸動脈狭窄症

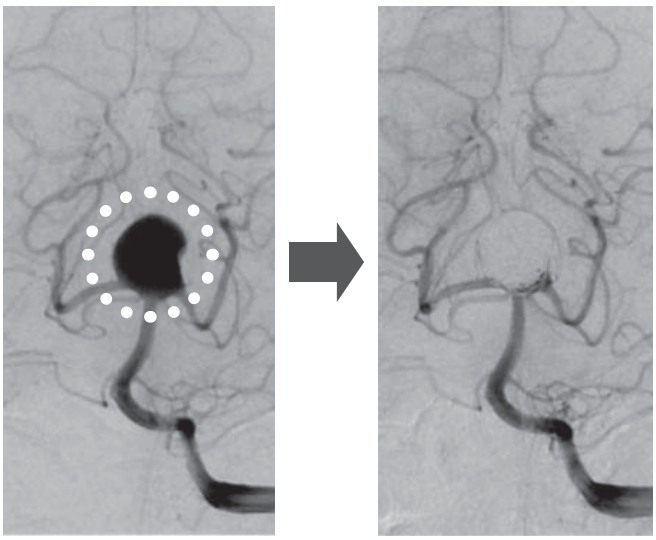
近年、食生活の欧米化、検査機器技術の向上により、脳梗塞の原因として頸動脈狭窄症が非常に注目されています。更に、比較的若い年代の芸能人が同疾患にて脳梗塞となり、認知度が高まっています。脳梗塞によって症状が出現する場合だけではなく、一過性の症状（運動障害、言語障害、視野障害など）や症状がない場合でも、頸動脈が高度狭窄になっていて、将来的に脳梗塞を起こす危険性がある場合もあります。高度頸動脈狭窄に対する治療法は、内科的治療、頸動脈内膜剥離術に加えて最近では頸動脈ステント留置術が注目されています。ステント留置術は、血管造影検査と同様に足の付け根からカテーテルを挿入して行うため、通常は全身麻酔も不要で手技時間も60分程度で終了します。したがって、高齢者、合併症のせいで全身麻酔が厳しい患者さんなどでも手技が可能ですし、入院期間も数日と短く済みます。我が国でも2008年4月から保険適応治療となったことからステント治療の適応症例は増加しています。



▲術前　▲術後

▷未破裂脳動脈瘤

我が国では脳ドックの普及も相まって、検査機器の性能の向上とともに、症状なしで未破裂脳動脈瘤がみつかる機会が増えています。そのため偶然みつかった脳動脈瘤を手術するべきなのか、そのままおいて経過をみてもいいのか、苦悩されることも多いかと思います。くも膜下出血の原因の80%は脳動脈瘤の破裂であり、現在でもその死亡率は30%前後に至り、医学の発達した現代でも治療困難な病気です。脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の発症率は人口10万人に対して年間15～20人であり、未破裂脳動脈瘤の破裂率は年間1%程度と考えられています。ただし、脳動脈瘤の歪な形状、大型、喫煙歴、高血圧、アルコール多飲、くも膜下出血の家族歴、多発例などを有する場合は破裂する危険性が高くなるといわれています。以上のことをふまえ、無症候性未破裂脳動脈瘤の治療に際しては、個々の年齢、既往歴、家族歴、動脈瘤の大きさなどから破裂する危険度を客観的に評価し、脳血管内治療を検討することを推奨します。



▲術前　▲術後

地域健康フェスティバル2015を開催しました

平成27年2月22日（日）当院にて、今年も地域健康フェスティバル2015（目黒区医師会共催、目黒区後援）を開催させていただきました。計測ツアー（血圧･血糖、骨密度、血管年齢、頸動脈エコー）、転倒予防体操、健康講話、手術室ツアー、なりきりキッズ写真館などのコーナーを設け、当日の悪天候にもかかわらず、360名超の方がお越しくださいました。ありがとうございました。

厚生中央病院では、今後も皆様の健康の一助となり、楽しんでもらえるような企画を検討してまいります。次回も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

＊手術室ツアー＊

＊転倒予防体操＊

＊計測ツアー＊

＊なりきりキッズ写真館＊

「乳腺専門外来」開設のご案内

呼吸器・乳腺外科では、本年4月6日から毎週月曜午前、東京医科大学病院乳腺科の海瀬（かいせ） 博史（ひろし）（医師による「乳腺専門外来」を開設いたします。海瀬医師はこれまで長年にわたり大学で乳腺疾患の研究に携わり、乳腺専門医の最前線で中心的役割を担ってきました。乳腺領域でご心配な患者様がいらっしゃいましたら、ぜひともご相談またはご紹介いただければ幸いです。

なお、他の曜日もこれまで同様、呼吸器・乳腺外科外来の診察を行っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

小児科外来からお知らせ

●「小児科特別外来」を始めました（毎週月曜日14：30～16:00）

当院では小児科において、平成27年3月から東京医科大学病院小児科主任教授　河島（かわしま） 尚志（ひさし）医師による「小児科特別外来（要予約）」を開設いたしました。各種の難治性免疫疾患や近年注目されている自己炎症性疾患、便秘症、炎症性腸疾患、肝臓疾患、川崎病等でお困りのお子様がいらっしゃいましたら、お気軽にご相談下さい。

ご予約は、小児科外来まで、直接お電話お願い致します。03－3713－2141（代表電話）

●菅波　佑介医師が赴任されました。

平成27年3月から、小児科診療科長として菅波（すがなみ） 佑介（ゆうすけ）医師が常勤医として東京医科大学病院小児科から赴任いたしました。よろしくお願い申し上げます。

また、4月からは午後の診療も行うことといたしました。受付は平日14:30～16:00となります。あわせてよろしくお願い致します。

さんま通信 No41 2015 発行元：総合病院 厚生中央病院 医療連携室 〒153-8581 東京都目黒区三田1-11-7 TEL.03-3713-2141 FAX:03-3713-8021 E-mail:renkeisitu@kohseichuo.jp URL http://www.kohseichuo.jp